

## うちどくマニュアル（学校・園・各館用）

### 趣旨

熊野町では、家庭において子どもと家族が同じ本を読み、その感想を共有する事によって互いの絆を深め、良好な家庭環境を醸成し、もって子どもの教育環境向上に資することを目的とし、継続的な取り組みに対する支援を行う。

### 「うちどく」の内容

- ・子どもと家族のだれかが1週間のうち2日、15分以上テレビ・携帯電話などの電源を切り、本を読む。（※本とはマンガ・雑誌・教科書を除く。）
- ・読んだ本の題名・作者名を「くまのっ子うちどくノート」（以下ノートという）に記入する。（書けなかった時は詰めて記入する。）
- ・10週分記入したら担任または生涯学習課・各公民館・図書館の職員に確認印をもらう。
- ・ノートは50週分記入で満了とする。

### ノート配布年齢・配布方法

- ・0歳から中学3年生までの児童生徒等にノートを配布する。
- ・0歳は(\*1) ブックスタート で配布する。
- ・保育所・幼稚園・小学校・中学校は各施設から配布する。
- ・未就園児は生涯学習課・各公民館・図書館で配布する。
- ・未就園児のうち、きょうだいのいる子は保護者の口頭申請により、保育所・幼稚園でも配布可能とする。
- ・乳児医療申請・1歳半健診・3歳健診時にも保護者の口頭申請により、配布可能とする。

### 実施方法

- ・家族と一緒に同じ本を読む。（「うちどく」の内容のとおり）
- ・同じ時間に読めないときは、時間を変えて読んでも良い。（保護者は子どもが寝た後、読むなど）
- ・時間は15分程度（目安であり、絵本1冊程度以上とする。）
- ・読む間、テレビ・携帯電話・インターネットはしない。
- ・1週間のうち2日読んだ本の題名、作者名をうちどくノートに記入する。  
（乳児・幼児の場合は子どもに本を読んだ人が記入）
- ・子どもが家族に本を読んであげたら読んでもらった家族も本を読んだ事になる。
- ・中学生にも絵本を積極的に推奨する。
- ・各公民館・図書館にうちどくコーナーを作り、本の紹介・本が読めるスペースを作る。
- ・本は多く読むことを勧めるが、ノートに記入できるのは週2日、15分読んだときである。  
（それ以上の読書記録も、ノートの「これも読んだよ」のページに記入できる。）
- ・詳細についてはノートの記入例を参照する。
- ・ノート10週分記入したら担任がチェックする。（確認欄にサインする）

- ・ノート10週分記入したら担任はその子どもにハイタッチなどのスキンシップをとる。
- ・担任は9月末と2月末に進行状況として、児童生徒等何週満了児が何名いるかを教育委員会に報告する。
- ・満了したノートは教育委員会、各公民館、図書館、民生課、健康課のいずれかに提出する。
- ・提出を受けた各館、課は生涯学習課に持参する。
- ・50週分記入した児童生徒等には教育委員会が確認後、担任を通じて新旧ノートとともに努力賞を進呈する。
- ・未就園児など教育委員会に直接提出した児童生徒等には、内容確認後、電話連絡し、教育委員会窓口に努力賞を受け取りに来てもらう。
- ・ノートは50週分を満了するまで、1冊を継続して記入する。

### 「うちどく」により期待される効果

- (1) 家族の会話が増進され、家族間コミュニケーションが深まる。
- (2) 家族に認められることで、子どもに自己肯定感を生む機会となる。
- (3) 家庭生活の中に、TVやネット、ゲームのない一定の時間が確保される。
- (4) 読書の内容が、子どもだけでなく家族の心にも働きかける。他を思いやる想像力、新たな知識や楽しみを得られ、心の安定や豊かさが生まれる。
- (5) 教員に認められることで、子どもに自己肯定感を生む機会となる。
- (6) 子どもと教員の間新たなスキンシップの機会となる。
- (7) 教員と家庭の間で、相互に働きかける新たな機会となる。
- (8) 子どもの言葉の力、論理的思考力が伸び、学力向上が期待される。朝の読書実施校と全国学力テストの成績には相関関係が実証されている。
- (9) 家庭文化度の向上、それによって町全体の文化度の向上が期待される。
- (10) 家庭と学校、図書館、公民館の連携が活発化する。
- (11) 学校における朝の読書との相乗効果が期待できる。

(\*1) ブックスタートとは子どもの知的発達とともに、親子のコミュニケーション手段として熊野町が生後5ヶ月の乳児を対象に絵本を配布する事業